

DPCデータを用いた病院情報の公表

◇ DPC（診断群分類別包括制度）とは

DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、医師が決定した病名に基づき、入院患者さんの一連の医療行為を、国で定めた1日あたりの定額の点数から入院医療費を計算する制度です。
DPCの対象となる患者さんは、医療保険を使用し、一般病棟に入院された患者さんです。
傷病名と手術、処置の有無の組み合わせによって、14桁のDPCコードが決められています。

◇ 病院情報公開の目的

DPCデータから全国統一の定義と形式に基づいた指標を作成し、市民の皆様に情報公開を進めています。
数値やデータを解説化することにより、当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくことを目的として公開しています。また、当院におけるDPCデータの質の向上とDPCデータ分析力、説明力の向上を図っていきます。

◇ 集計項目と定義

主な定義

令和5（2023）年4月1日～令和6（2024）年3月31日に退院された患者さんが対象です。
医科保険適用患者さんが対象となり、自動車賠償責任保険や労災保険、自費等の患者さんは含みません。
入院期間中に一度も一般病棟を使用されなかった患者さんは集計対象外となります。
入院後24時間以内に死亡した患者さんまたは生後1週間以内に死亡した新生児は集計対象外となります。
全集計について、10人未満の場合は、「-（ハイフン）」を表記しています。

集計項目

I. 病院指標

(1) 年齢階級別退院患者数

10歳刻みの年齢階級別に集計しています。
年齢階級別に集計することで、当院の特徴や患者構成をある程度知ることができます。

(2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

症例数の多いDPC14桁分類（DPCコード）を、各診療科別に集計しています。項目はDPCコードに対する患者数、平均在院日数（自院・全国）、転院率、平均年齢で、各診療科別に上位5つを掲載しています。

(3) 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

5大癌と呼ばれる胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌の患者さんの人数を、初発のUICC病期（ステージ）分類別および再発に分けて集計しています。

※UICC病期分類とは…

国際対がん連合(UICC)によって定められた病期(ステージ)分類。原発巣の大きさと拡がり(T)、所属リンパ節への転移の有無/拡がり(N)、遠隔転移の有無(M)の要素によって、各癌をⅠ～Ⅳ期の病期に分類するものです。

(4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者さんの人数を、重症度別に集計しました。

重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による重症度分類システムを用いています。

【重症度分類(A-DROPスコア)】

- A. 男性 \geq 70歳、女性 \geq 75歳
- D. 尿素窒素 \geq 21mg/dL または脱水
- R. 酸素飽和度 \leq 90%
- O. 意識障害あり
- P. 収縮期血圧 \leq 90mmHg以下

【重症度分類】

- 軽症: 0点の場合
- 中等症: 1~2点の場合
- 重症: 3点の場合。意識障害あれば1点でも重症
- 超重症: 4~5点の場合
- 不明: 重症度分類の各因子が1つでも不明な場合

(5) 脳梗塞の患者数等

脳梗塞の病型(ICD-10コード)別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計しています。

※ICD-10コードとは…

International Classification of Diseases and Related Health Problems(疾病及び関連保健問題の国際統計分類)の略称で、世界保健機構(WHO)が世界保健機関憲章に基づき作成した、傷病に関する分類です。現在は1990年に改訂された、第10回修正版(ICD-10)が採択されています。

(6) 診療科別主要手術別患者数等

症例数の多い手術件数を各診療科別に集計しています。項目は、手術術式の点数表コード(Kコード)に対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢で、各診療科別に上位5つを掲載しています。

一入院期間で手術を複数回行った場合は、主たる手術(一番点数の高い手術)のみをカウントしています。

(7) その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DIC(播種性血管内凝固)、敗血症、真菌症、手術・処置などの合併症の患者数と発生率について、DPC病名(最も医療資源を投入した病名)と入院契機病名(入院のきっかけとなった病名)が「同一」か「異なる」に分けて集計しています。

入院契機と「同一」は、ある病気の診療目的で入院し、その病気の治療を行ったことを表し、入院契機と「異なる」は、ある病気の診療目的で入院したが、入院時より併発していた、もしくは入院中に違う病気が発症し、その治療が主となってしまった場合を表します。

※DIC(播種性血管内凝固)とは…

小さな血栓が全身の血管のあちこちにてきて、小さな血管を詰まらせる全身性の重篤な病気です。

血液凝固が増加することで出血の抑制に必要な血小板と凝固因子を使い果たし、大量出血を引き起こす場合もあります。

※敗血症とは…

感染症をきっかけに、病原菌が多量に血液の中に入り込むことで起こる重篤な全身の感染症です。

※その他の真菌症とは…

真菌による感染症です。代表的な真菌症として、白癬(水虫、たむし)、カンジダ症などがあります。

※手術・術後の合併症とは…

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。

II. 医療の質指標

(1) リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施

周術期の肺血栓塞栓症の予防行為(弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法)の実施は、発生率を下げるにつながります。

この指標は、肺血栓塞栓症の発症リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者さんの、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された割合を集計しています。

※肺血栓塞栓症とは…

血液の流れに乗って運ばれてきた異物(血栓)が肺動脈を塞いでしまった状態を肺血栓塞栓症といいます。

(2) 血液培養2セット実施率

広域抗菌薬を使用する際、投与開始時に血液培養検査を行うことは、望ましいプラクティスとなります。また、血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため2セット以上行うことが推奨されています。

この指標は、血液培養を行う際に2セット以上の検査が実施された割合を集計しています。

(3) 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

近年、多剤耐性アシネトバクター属菌や、幅広い菌種に効果を有するカルバペネム系抗菌薬に耐性のある腸内細菌科細菌など、新たな抗菌薬耐性菌(以下、耐性菌)が出現し、難治症例が増加していることが世界的問題となっています。不適切な抗菌薬の使用は、耐性菌の発生や蔓延の原因になることから、各医療機関において抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team:AST)を組織するなど、抗菌薬適正使用を推進する取り組みが求められます。抗菌薬適正使用の鍵を握るのは正確な微生物学的診断であり、抗菌薬投与前の適切な検体採取と培養検査が必要です。

◇ 関係法令

集計項目の結果を公表するにあたっては、厚生労働省による「医療広告ガイドライン」を遵守しています。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/kokokukisei/

(1) 年齢階級別退院患者数

年齢区分	0~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~
患者数	260	68	94	144	203	327	627	1127	950	362

当院は、福井県嶺南地域の中核病院として、幅広い年齢層の患者さんに医療を提供しています。当院の入院患者は、重症化しやすい高齢の患者さんが多い傾向にあり、約7割を60歳以上の高齢者が占めています。

年齢別に疾患をみると、小児期では新生児の入院や小児のてんかん、けいれんの入院が上位を占めます。20~30歳代では産婦人科系の入院が多く、40~50歳代では消化器系や循環器系、尿路系など多種多様の疾患での入院が多い傾向にあります。60歳代では特に狭心症などの循環器疾患が多く、70歳代ではさらに悪性腫瘍(がん)や前立腺肥大症などが加わってきます。80歳以上の高齢者層では、肺炎、大腿骨頸部骨折、心不全での入院が多い傾向にあります。

(2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

【内科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎	78	27.55	20.60	7.69	85.27
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍・化学療法あり	45	8.36	8.33	0.00	73.80
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍・気管支鏡検査あり	37	2.43	2.98	0.00	70.97
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	32	26.56	13.52	6.25	76.91
040110xxxxx0xx	間質性肺炎	31	28.10	18.65	9.68	77.23

内科では、呼吸器、腎臓、糖尿病・内分泌、血液、膠原病・免疫・アレルギーと幅広く治療を行っています。
内科の入院患者の約7割は70歳以上の高齢の患者さんです。
そのため、高齢者が罹患しやすい誤嚥性肺炎が最も多く、次いで肺がんや尿路感染症などの入院が多い傾向にあります。

【消化器内科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎・内視鏡的治療等あり	55	15.42	8.75	0.00	76.71
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎	26	16.65	20.60	7.69	86.19
060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	21	10.38	10.92	0.00	75.10
060350xx99x00x	急性膵炎、被包化壊死	16	13.63	10.22	6.25	61.69
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍・内視鏡的治療あり	15	8.13	7.61	0.00	72.47

当地は胆管結石症例が多く、内視鏡的胆道ドレナージや胆管結石除去術などの内視鏡的治療を行っています。
また、肝疾患は肝臓専門医を中心に診療し、肝生検による病理学的な検査などを積極的に行っています。

【循環器科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
050050xx9910x0	狭心症、慢性虚血性心疾患・心臓カテーテル検査あり	70	2.17	3.05	1.43	70.00
050130xx9900x0	心不全・リハビリのみ	41	17.90	17.38	4.88	83.73
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患・経皮的冠動脈形成術等あり	39	5.64	4.26	0.00	71.97
050050xx9920x0	狭心症、慢性虚血性心疾患・心臓カテーテル検査+血管内超音波検査あり	37	2.03	3.25	0.00	70.81
050210xx97000x	徐脈性不整脈・ペースメーカー植え込み術あり	29	8.86	9.77	3.45	79.34

当院では、急性心筋梗塞や狭心症、重症心不全、致死性不整脈など、治療に一刻を争う緊急度の高い疾患に適切な検査・治療ができるよう循環器専門医師が24時間体制で対応しています。

また、病診連携を最も大事にしており、他の医療機関とも密に連携を図り治療を継続しています。

【小児科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (2500g以上)	51	6.39	6.07	0.00	0.00
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 (その他)	48	5.73	5.96	0.00	0.73
150040xxxxx0xx	熱性けいれん	27	4.19	3.56	0.00	2.26
140010x299x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (1500g以上2500g未満)	20	14.65	11.01	0.00	0.00
010230xx99x00x	てんかん	12	2.75	7.19	0.00	10.58

一般小児科では感染症など急性期疾患を中心に入院治療を行っています。

また、当院は地域周産期センターに指定されており、出生時の様々な異常、黄疸、軽度の呼吸障害などに対応しています。

【外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
060335xx02000x	胆嚢炎等・腹腔鏡下胆嚢摘出術あり	69	7.48	6.87	1.45	66.17
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上)・手術あり	46	6.46	4.55	0.00	70.02
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞・手術なし	38	10.84	8.95	0.00	68.76
060150xx03xxxx	虫垂炎・虫垂切除術あり	26	5.04	5.29	0.00	31.77
060210xx9700xx	ヘルニアの記載のない腸閉塞・手術あり	26	10.96	13.96	0.00	61.65

腸閉塞や胆嚢炎、虫垂炎などの消化器外科の入院が上位を占めていますが、胸部・乳腺・内分泌外科、消化器外科、血管外科の各分野ごとに経験豊富な専門医が揃っており互いに協力して診療を行っています。

【乳腺外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍・乳腺悪性腫瘍手術(腋窩郭清を伴わない乳房部分切除以外)あり	28	13.04	9.88	0.00	61.96
090010xx02xxxx	乳房の悪性腫瘍・乳腺悪性腫瘍手術(腋窩郭清を伴わない乳房部分切除)あり	14	4.50	5.64	0.00	67.36
090020xx97xxxx	乳房の良性腫瘍・手術あり	—	—	4.00	—	—
090010xx97x4xx	乳房の悪性腫瘍・化学療法あり	—	—	7.37	—	—
090010xx99x0xx	乳房の悪性腫瘍・手術なし	—	—	9.69	—	—

※10人未満の場合は、「—(ハイフン)」を表記。

乳がんは女性で最も多いがんであり、患者数は年々増加傾向にあります。特に、40代から乳がんと診断される可能性が高くなります。確率は低いですが、男性が乳がんになることもあります。

【整形外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折・手術あり	76	40.30	25.50	11.84	83.92
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)・手術なし	29	34.17	19.34	3.45	77.55
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。)・手術あり	22	34.59	21.96	0.00	74.50
07040xxx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節症(変形性を含む。)・手術あり	22	36.32	19.55	0.00	69.64
160760xx97xx0x	前腕の骨折・手術あり	22	6.91	4.76	0.00	56.32

整形外科は、生活の質に関わる疾患を扱う診療科です。

当院では、関節・脊椎・外傷・スポーツ障害のいずれの分野にも造詣の深い専門医が揃っており、幅広い年代・疾患に対する治療を行っています。

【脳神経外科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷・手術あり	29	17.72	9.88	3.45	79.41
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)	26	33.12	19.09	38.46	70.46
010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)・リハビリあり	21	31.57	15.57	4.76	73.29
010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)・エダラボンあり	20	27.85	15.70	25.00	75.90
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷・手術なし	20	22.65	8.38	10.00	73.90

脳神経外科医4人制で、緊急性がある場合は夜間・休日を問わず診察を行っています。

入院患者の多くは脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)が原因です。

脳卒中の中でも約3分の2を占める脳梗塞に対しては、超急性期治療としてt-PA静注療法(血栓溶解療法)やカテーテルによる血栓回収療法を行っています。また、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血では、カテーテルによる脳動脈瘤コイル塞栓術や開頭クリッピング術を行っています。そのほか、脳動静脈奇形や脳腫瘍に対しては、放射線科医と協力し、低侵襲である定位放射線治療もを行っています。

【皮膚科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)・手術あり	—	—	7.22	—	—
080010xxxx0xxx	膿皮症	—	—	12.88	—	—
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物・手術あり	—	—	3.93	—	—
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	—	—	9.29	—	—
161000x199x0xx	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷(Burn Index10未満)	—	—	12.63	—	—

※10人未満の場合は、「—(ハイフン)」を表記。

皮膚科では帯状疱疹をはじめ、炎症性疾患、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、皮膚腫瘍、感染症など皮膚疾患全般にわたり対応しています。治療は外用療法、内服療法、光線療法、外科的療法などを用いて適宜併用して行っています。より専門性の高い検査、治療が必要な場合には関連施設と協力して治療を継続しています。

【泌尿器科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍・針生検あり	46	2.65	2.44	0.00	71.43
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患・経尿道的尿路結石除去術	36	4.39	5.22	0.00	63.61
110070xx03x20x	膀胱腫瘍・経尿道的悪性腫瘍手術あり	31	5.48	6.59	0.00	75.03
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症	28	16.54	13.52	3.57	77.00
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等・経尿道的前立腺手術あり	15	8.60	7.75	0.00	76.40

尿路結石症、前立腺肥大症、包茎や陰のう水腫などの良性疾患や、前立腺癌、膀胱癌、腎癌などの尿路悪性腫瘍に対する外科的処置や手術治療を行っています。

また、尿路感染症や悪性腫瘍に対する薬物療法も行っています。

【産婦人科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
I20I80xx0Ixxxx	胎児及び胎児付属物の異常・帝王切開等あり	23	10.30	9.34	0.00	32.65
I20I40xxxxxxxx	流産	16	2.00	2.43	0.00	32.94
I20060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍・鏡視下手術あり	11	7.55	5.93	0.00	49.09
I20I70x099xxxx	早産、切迫早産(妊娠週数34週以上)	11	4.36	7.12	0.00	31.64
I20I70xI99xxxx	早産、切迫早産(妊娠週数34週未満)	11	12.45	20.10	27.27	30.55

福井県嶺南地区周産期医療システムの中核施設として、県の地域周産期母子医療センターに指定されており、合併症妊娠・多胎妊娠・切迫流早産・胎盤位置異常・胎児異常などのハイリスク妊娠・分娩の母体管理などの周産期医療に取り組んでいます。

【耳鼻咽喉科】

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率 (%)	平均年齢
030240xx0Ixx0x	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎・手術あり	14	5.93	7.52	0.00	53.43
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎・手術なし	12	5.08	5.51	0.00	45.08
030390xx99xxxx	顔面神経障害	10	6.70	8.71	0.00	61.30
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	-	-	6.02	-	-
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	-	-	7.53	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

従来より喉頭微細手術(CO2レーザーを使用しないものに限る)、鼻内視鏡手術(内視鏡下鼻中隔手術I型・内視鏡下鼻腔手術I型)、鼓膜形成手術、唾液腺手術(耳下腺症例を除く)、舌悪性腫瘍手術(部分切除のみ)、気管切開を可能な体制となっております。

さらに、2023年度より甲状腺悪性腫瘍手術(DI郭清のものに限る)、耳下腺腫瘍摘出手術、鼻内視鏡手術(内視鏡下鼻副鼻腔手術Ⅲ型・選択的複数洞)を施行可能な体制しました。

引き続き、扁桃周囲膿瘍に対する切開排膿・鼻出血に対する鼻粘膜焼灼・鼓膜チューブ挿入術のような外来手術処置、顔面神経麻痺・急性感音難聴に対する保存的加療での入院も可能です。

(3) 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃 癌	27	10	19	15	—	16	1	8
大腸癌	11	18	32	11	—	—	1	8
乳 癌	17	29	13	—	—	11	1	8
肺 癌	—	—	24	90	16	15	1	8
肝 癌	—	—	—	—	—	11	1	8

※10人未満の場合は、「—(ハイフン)」を表記。

※病期分類基準 1:UICC TNM分類 2:癌取り扱い規約

当院でがんの診断や初回治療を行った「初発」患者さんの病期(ステージ)別の患者数と、初回治療後(症状の増悪やがんの再発後)に入院された「再発」の患者数を、5大癌(胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん)別に集計しています。

胃がん・大腸がんは内視鏡的手術、開腹手術、腹腔鏡下手術、抗がん剤治療などステージや患者さんの状態に合わせて幅広い治療を行っています。

肺がんは早期診断のため病診連携を最も大事にしており、複合医療機器を使用して早期がん発見と治療に専念しています。

乳がんは早期発見のために2年毎の検診が必要になりますが、当院では一次検診、二次検診共に請け負っています。

肝がんは治療後に再発することが多いがんであり、当院も初回治療後の再発で入院される方が半分以上の割合を占めています。肝細胞癌に対する治療として肝動脈塞栓術(TAE)を中心とした集学的治療を行っています。

(4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽 症	13	10.92	57.69
中 等 症	50	20.90	80.32
重 症	11	27.27	79.27
超 重 症	—	—	—
不 明	—	—	—

※10人未満の場合は、「—(ハイフン)」を表記。

日本の原因別死亡率の第5位が「肺炎」であり、高齢化に伴い増加傾向にあります。

当院の成人市中肺炎の重症度別患者数に関しては中等症が最も多く、平均年齢も80歳と高年齢となっています。

当院では軽症～超重症の患者さんまで幅広く受け入れており、超重症については患者数が少人数のため上記表には表示されていませんが、重症度が上がるにつれて平均年齢は高くなり、平均在院日数は延びる傾向にあります。

高齢の市中肺炎は重症化の危険性も高いため、適切な検査および抗菌薬の使用、全身管理などの支持療法が主体となります。また、当院では入院の長期化による筋力低下を防ぐため、早期から呼吸リハビリテーションなどの理学療法を行い在宅復帰を心がけています。

(5) 脳梗塞の患者数等

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率(%)
3日以内	118	35.36	78.09	24.00
その他	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

脳卒中全体の約3分の2を占める脳梗塞に対し、超急性期治療として、t-PA静注療法(血栓溶解療法)やカテーテルによる血栓回収療法を行っています。

通常約1ヶ月程度の入院期間で治療とリハビリを行い、急性期治療後は地域包括ケア病棟(在宅復帰に向けた支援を行うことを目的とした病棟)に転棟し、自宅へと退院されます。

また、自宅や施設への退院が困難な場合や、退院後の生活に不安がある患者さんについては、近隣の病院と連携しリハビリ継続目的で転院する場合があります。

(6) 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

【内科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K61211	末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純)	23	9.48	17.39	8.70	69.13
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術(初回)	22	4.23	5.32	0.00	70.27
K496-4	胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	-	-	-	-	-
K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	-	-	-	-	-
K616-42	経皮的シャント拡張術・血栓除去術(1の実施後3月以内に実施)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「-（ハイフン）」を表記。

当院は腎機能の低下により血液透析を必要とする患者さんが多く、血液透析に必要なシャント血管を作成する内シャント設置術やシャント血管の不調に対する手術を実施しています。

血液透析は、週に2・3回行う必要があり、そのたびにシャント血管内は大量の血液が流れることとなります。

そのため何度か治療を繰り返すうちにシャント血管内が細くなったり、血管が詰まってしまうことがあります。

その場合には、当院のIVR専門医が細くなった血管を広げたり、詰まった血管の通りを良くする手術(経皮的シャント拡張術・血栓除去術)を行っています。

【消化器内科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	29	3.21	16.24	0.00	76.14
K654	内視鏡的消化管止血術	27	0.89	10.44	0.00	76.59
K6852	内視鏡的胆道結石除去術(その他)	19	2.95	10.89	0.00	77.89
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜)	15	0.27	6.87	0.00	72.47
K6871	内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	14	1.93	15.29	0.00	76.64

消化器内視鏡専門医・指導医を中心に24時間体制で内視鏡検査・治療を行っています。

当地では胆管結石症例が多く、胆道の狭窄を防ぐための内視鏡的胆道ステント留置術や、結石排出のための内視鏡的乳頭切開術など胆道治療を多く行っています。

また、早期食道がんや早期胃がん、早期大腸がんに対する内視鏡治療(ESD)も積極的に行っています。

【循環器科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	21	1.95	2.71	0.00	72.52
K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極)	19	1.84	7.11	0.00	76.89
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	13	0.00	10.77	7.69	70.46
K597-2	ペースメーカー交換術	11	0.27	7.27	0.00	83.73
K5461	経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

狭心症や急性心筋梗塞などの急性虚血性疾患に対するカテーテル治療を年間約80件以上行っています。急性虚血性疾患など緊急性の高い疾患に対して24時間対応しており、患者さんの状態が安定している場合は日を改めて行うこともあります。徐脈性不整脈の治療としては、ペースメーカー手術も多く行っており、術後は安心して生活・治療できるよう、ペースメーカー外来で患者さんをサポートしています。

【小児科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K7151	腸重積症整復術(非観血的)	-	-	-	-	-
K9131	新生児仮死蘇生術(仮死第1度)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

当院では新生児治療室を設置しており、出生児の様々な異常や感染症、黄疸などに対応しています。

【外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	68	1.19	5.25	1.47	65.96
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	36	1.25	3.89	0.00	67.94
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	26	0.15	3.88	0.00	31.77
K714-2	腹腔鏡下腸管癒着剥離術	22	0.91	13.41	0.00	65.86
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	17	3.29	16.71	0.00	72.41

傷が小さく体への負担が軽減される鏡視下手術を積極的に行っており、胆石、虫垂炎、胃がん、大腸がんなどに対して年間200件近くの鏡視下手術を行っています。

【乳腺外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K4763	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	19	1.00	10.63	0.00	61.58
K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	14	0.64	2.86	0.00	67.36
K6112	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(四肢)	13	4.15	6.92	0.00	62.15
K4741	乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	-	-	-	-	-
K4765	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「-(ハイフン)」を表記。

乳がんは女性で最も多いがんであり、患者数は年々増加しています。当院では乳腺外科専門医が常勤医として、乳腺の検査、乳がんに対する手術や薬物療法などを行っています。

【整形外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率 (%)	平均年齢
K0461	骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	64	1.02	39.86	7.81	82.86
K0821	人工関節置換術(肩、股、膝)	47	1.15	33.47	0.00	71.96
K0462	骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	38	1.24	12.84	0.00	67.34
K0811	人工骨頭挿入術(肩、股)	25	1.28	36.44	16.00	83.80
K142-4	経皮的椎体形成術	19	4.05	23.89	5.26	81.11

当院では、患者さんの術後早期回復につながる、より侵襲の少ない人工股・膝関節置換術を行っています。股関節に対しては、術後脱臼を少なくするアプローチ(前方、前外側、後方)を用いています。膝関節に対しては、ナビゲーションシステムを用いて、人工関節のできるだけ正確な設置を目指しております。

脊椎疾患に対しても、低侵襲で体に優しい手術を心がけています。高齢者に多くみられる骨粗鬆症性椎体骨折(脊椎圧迫骨折)に対しては、経皮的椎体形成術(BKP)と呼ばれる治療を行っています。

【脳神経外科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率 (%)	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭)	25	0.24	25.92	16.00	80.44
K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	-	-	-	-	-
K178-4	経皮的脳血栓回収術	-	-	-	-	-
K1781	脳血管内手術(1箇所)	-	-	-	-	-
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「-(ハイフン)」を表記。

当院では人口の高齢化とともに65歳以上の入院患者が増加しています。

そのため、脳血管障害(脳卒中)の手術に際しては、従来の手術治療法(開頭手術)に加えて、切開せずに治療できる脳血管内手術(カテーテルによる手術)や神経内視鏡を用いた低侵襲な治療を積極的に行っています。

全身合併症(心疾患、呼吸器疾患、腎疾患など)やその他開頭手術が困難な要因を持つ方に適しています。

転倒して頭部打撲後1-2ヶ月後に発生する、高齢者特有の慢性硬膜下血腫に対する手術も増加しています。

【皮膚科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	11	0.00	4.45	0.00	83.36
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm以上6cm未満)	-	-	-	-	-
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	-	-	-	-	-
K0021	デブリードマン(100cm ² 未満)	-	-	-	-	-
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上12cm未満)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「-(ハイフン)」を表記。

皮膚科入院では皮膚の悪性腫瘍に対する手術を中心に行っており、その他手術は主に外来で行っています。

※露出部とは… 頭部・頸部・肘関節から下の部分、膝関節から下の部分。

【泌尿器科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K80361	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用)	42	1.76	3.10	0.00	74.50
K7811	経尿道的尿路結石除去術(レーザー)	33	1.42	2.06	0.00	64.09
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	15	1.00	12.93	6.67	66.27
K800-2	経尿道的電気凝固術	14	1.64	2.00	0.00	75.93
K841-21	経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術(ホルミウムレーザー等使用)	11	2.73	10.36	0.00	73.00

泌尿器科では、尿路結石に対する経尿道的尿路結石除去術や、前立腺肥大症に対する内視鏡治療(TURP、HoLEP、前立腺水蒸気治療、前立腺吊上術)、膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)などの内視鏡治療を中心に行っています。

また、腎癌、上部尿路の悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術も行っています。

【産婦人科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K8981	帝王切開術(緊急帝王切開)	17	2.06	7.82	5.88	30.35
K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	15	1.33	7.87	0.00	33.73
K90911	流産手術(妊娠11週まで)(手動真空吸引法)	11	0.00	0.55	0.00	34.91
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	10	1.80	5.20	0.00	48.20
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

当院は福井県地域周産期センターに指定されており、ハイリスク妊娠やハイリスク分娩などの母児管理を取り扱っています。手術は産科手術を中心に、婦人科腫瘍に対する手術も行っています。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率(%)	平均年齢
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	13	0.00	4.08	0.00	50.69
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	11	1.00	7.00	0.00	42.18
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	-	-	-	-	-
K370	アデノイド切除術	-	-	-	-	-
K3431	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(切除)	-	-	-	-	-

※10人未満の場合は、「- (ハイフン)」を表記。

従来より喉頭微細手術(CO2レーザーを使用しないものに限る)、鼻内視鏡手術(内視鏡下鼻中隔手術I型・内視鏡下鼻腔手術I型)、鼓膜形成手術、唾液腺手術(耳下腺症例を除く)、舌悪性腫瘍手術(部分切除のみ)、気管切開を可能な体制となっております。

さらに、2023年度より甲状腺悪性腫瘍手術(DI郭清のものに限る)、耳下腺腫瘍摘出手術、鼻内視鏡手術(内視鏡下鼻副鼻腔手術Ⅲ型・選択的複数洞)を施行可能な体制しました。

引き続き、扁桃周囲膿瘍に対する切開排膿・鼻出血に対する鼻粘膜焼灼・鼓膜チューブ挿入術のような外来手術処置、顔面神経麻痺・急性感音難聴に対する保存的加療での入院も可能です。

(7) その他 (DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPCコード	傷病名	入院契機	患者数	発生率 (%)
I30100	播種性血管内凝固	同一	—	—
		異なる	—	—
I80010	敗血症 (1歳以上)	同一	—	—
		異なる	10	0.24
I80035	真菌症	同一	—	—
		異なる	—	—
I80040	手術・処置などの合併症	同一	16	0.39
		異なる	—	—

※10人未満の場合は、「— (ハイフン)」を表記。

播種性血管内凝固症候群や敗血症は、感染症などによって引き起こされる全身性の重篤な病態です。尿路感染症や肺炎などの炎症性疾患の診療目的で入院後、免疫力の低下などによって全身状態が悪化し発症することがあります。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染症の流行により、マスクの常時着用や手指消毒の徹底、三密の回避など、様々な感染予防対策が講じられ、現在も継続して実施しています。

手術・処置等の合併症は、カテーテルなど体外器具挿入後に起こった感染症や手術・処置後の出血などです。合併症はどうしても一定の確率で起こり得ます。起こり得る合併症については、手術や処置の前に十分に説明し、ご理解をいただいた上で実施しています。

(1) リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

肺血栓塞栓症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(分母)	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数(分子)	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率(%)
586	526	89.76

肺血栓塞栓症は、血管の中にできた血液の固まり(血栓)が肺の血管につまって、肺から血液への酸素の取り込みができなくなる病気で、長時間飛行機に乗った時にみられるエコノミークラス症候群としても知られています。

手術中や手術後には肺血栓塞栓症が起こりやすい状態となります。これは、①手術により血液が固まりやすい状態に変化する、②寝たきりの状態が長いと足の血の巡りが悪くなるため、足の静脈に血の固まりができやすくなるからです。肺血栓塞栓症がいったん発症すると10-30%の人が亡くなるといわれており、予防が重要となります。

当院では、入院時または手術前に、医師または看護師が血栓リスク評価を行い、予防策を決定し、用紙を用いて患者さんに説明を行っています。

(2) 血液培養2セット実施率

血液培養オーダー日数(分母)	血液培養オーダーが1日に2件以上ある日数(分子)	血液培養2セット実施率(%)
1258	1052	83.62

当院では、血液培養複数セット実施率の向上に向けた様々な取り組みを行ってきました。

その結果、小児検体を含めでも80%を超える実施率を維持することができています。さらに、1ボトルあたりの血液採取量(当院独自集計)も9mlを超えており、血液培養採取に対する意識が確実に向上していると評価しています。

今後も採血手技の評価として、汚染菌(コンタミネーション)率のモニタリングや、適切なタイミングでの採血実施を評価するための陽性率の分析を継続し、血液培養のベストプラクティスの実現を目指してまいります。

(3) 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数(分母)	分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数(分子)	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率(%)
412	306	74.27

抗菌薬の適正使用に関しては、指針を作成し、広域抗菌薬や抗MRSA薬について使用開始時より介入を行っています。また、長期投与症例については継続の必要性について確認を行い、必要に応じて主治医とディスカッションを行っています。血液培養など無菌検体の培養陽性症例に対しては、細菌検査室と連携し、ICT (Infection Control Team: 感染制御チーム) メンバーでリアルタイムに情報共有や評価を行い、医師へのフィードバックを行っています。今後も抗菌薬適正使用のために適切な検体採取と培養検査の実施を目指して参ります。